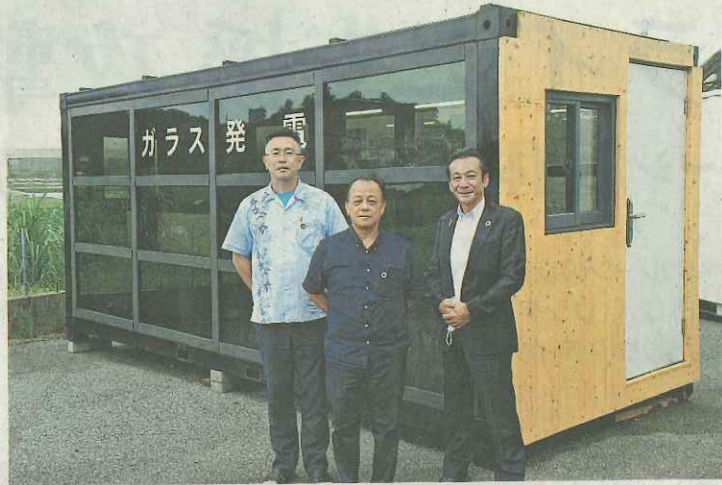


# 発電ガラスでエコ建物

## 太陽光パネルのモリベニ

脱炭素社会の実現に向けた事業を推進する沖縄C<sub>0</sub>削減推進協議会（那覇市、瑞慶覧長臣代表理事）と、同協議会会員で太陽光パネル輸入販売業のモリベニ（那覇市、朱蘇建代表）はこのほど、薄型太陽光発電内蔵ガラス（Low-E複層ガラス）を使用したガラス発電モデルハウスを南城市玉城前川に完成させた。発電ガラスを屋上や壁面に使うことで、高層ビルでも効率よく太陽光発電が可能になる。同協議会は業務用ビルZEB（ネット・ゼロ・エネルギービル）化の切り札になると期待する。

（政経部・石川亮太）



## 壁面に薄型内蔵 ■ 高層ビル活用も

同協議会によると、ガラス発電と蓄電池を一体化したモデルハウスは全国初の約12平方メートルのモデルハウスには、屋上に透過率0%で100ワットの発電ガラス12枚と、壁面には透過率40%で60ワットを24枚配置し、太陽光発電容量は2・6キロワット。ガラスは縦60センチ、横120センチで発電効率は15・1%となっている。室内照明とエアコンなどの電力を十分に賄える発電量を確保した。

使用しているのは中国製の複層ガラスでJIS規格の認定を取得済み。モリベニが国内の総代理店を担っている。遮熱率や発電率、発電モジュールができるだけ薄くなるよう要望を伝え、製造してもらった。

強度実験などを重ねて約1年かけて実用化に向けた準備を進めてきた。耐用年数は通常の太陽光パネルと同程度の約20年という。主に商業用の建物での使用を想定している。

同協議会は、本年度中に

ガラス発電モデルハウスをアピールする沖縄C<sub>0</sub>削減推進協議会の瑞慶覧長臣代表理事（中央）と同協議会発電ガラス局長の知念勇喜氏（左）、モリベニの朱蘇建代表（右）が、南城市玉城前川

宮古島市で4棟、栃木県で1棟の計5棟の貸事務所、同発電ガラスを活用した省エネ率100%の建物の建築を予定。モデルハウスを活用し、さらなる普及につなげていく考えだ。

建物の消費エネルギーを実質ゼロにするZEB認定を受けることで、国からの補助金を受けることができると、瑞慶覧代表理事は「高

層ビルでは屋上だけに太陽光パネルを設置してもビル全体の電力を賄えない。壁材や天井材に発電ガラスを使用することで、補助金を受けられ、地球環境にも貢献できる。発注者にとってもメリットのある商品を広げていきたい」と話した。

問い合わせは同協議会、電話098（9888）6301。